

20 農業機械の日常点検と農作業安全

日常点検の実施は、機械を長持ちさせ低コスト生産につながります。
また、日常の点検をすることで未然の事故を防ぎ、農作業安全対策にもつながります。

そこで、今回は動力噴霧器、草刈機、乗用型トラクター、田植機、自脱型コンバインの日常点検を紹介します。

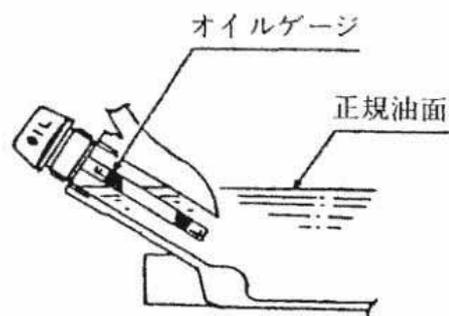
1 動力噴霧機の日常点検

エンジン部分

オイルの量と汚れ

交換の目安は初回は25時間、2回目以降は50時間ごとです。

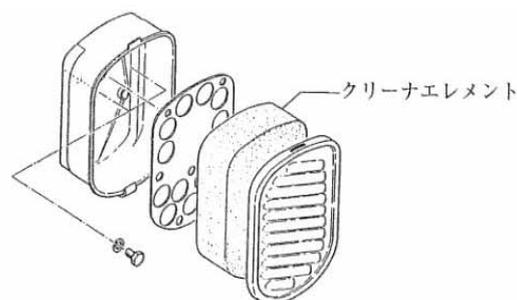
量の不足、汚れは、エンジンの焼け付きの原因となります。



エアクリーナ

半湿式ではガソリンで洗って、よく絞った後、エンジンオイルに浸し、強く絞ってから装着します。

詰まり、汚れは始動不良、馬力がでない原因となります。



スパークプラグの汚れ

電極に付着したカーボンを掃除します。

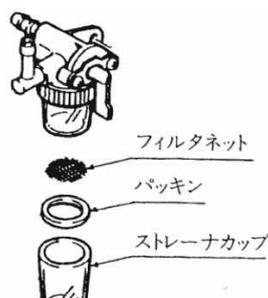
電極すき間を0.6~0.7mmに調整します。

カーボンの付着は失火の原因となります。



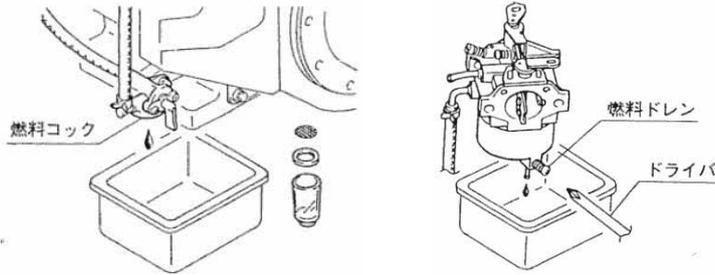
燃料ストレーナの汚れ

カップ内に水、ごみの沈殿があったら、カップを外して清掃し、フィルタネットの目詰まりも点検しましょう。



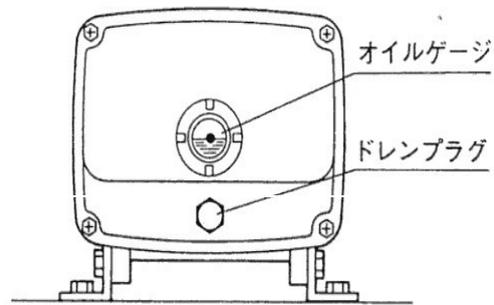
キャブレタ内の燃料を抜く(長期格納時)

燃料コックを閉めた後、ドライバでドレンを緩め、燃料を抜きましょう。
さらにエンジンを始動しエンストするまで回すと万全です。
ガソリンが変質するとキャブレタ内の小さな穴が詰まり、
翌シーズンにエンジンが始動しません。



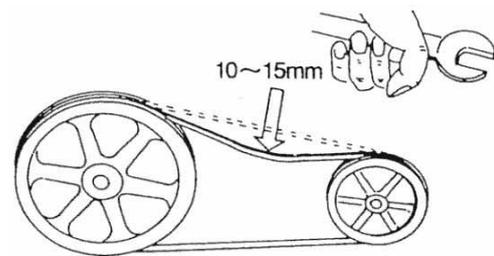
クランクケースオイルの量

オイル点検窓からオイル量と色を確認します。
交換の目安は初回は50時間、2回目以降
100時間ごとです。
色が白い場合は水が混入しているので、
オイルとシールの交換が必要です。



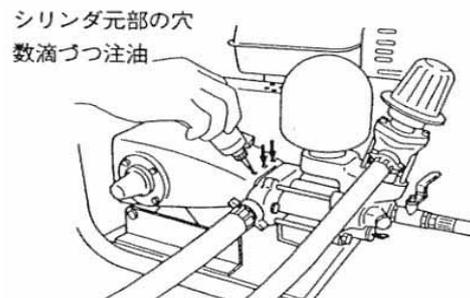
駆動Vベルトの張り

Vベルトの張りを点検し、緩い時は動力噴霧機の
取付位置をずらして調整します。



注油

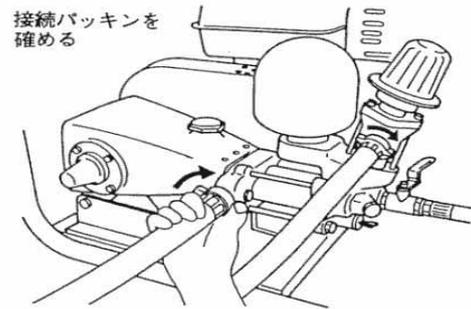
運転前及び運転中2~3時間ごとにシリンダ
元部の3か所の穴に注油します。
注油は、ピストン棒の動きをスムーズにする
ために行います。



各ホースの取付状態

吸水ホースの締めつけが緩いと吸い込み不良の原因となります。

吐出ホースのパッキンが不良になると水漏れが発生します。



清水運転と水抜き(長期格納時)

作業が終わったら、毎回5分程度清水運転して、中を洗浄しましょう。

洗浄が完了したら吸水ホースを引き上げ、ホース内の水抜きをします。

冬期間凍結するところでは、シリンダ下のドレンプラグを抜き、空運転して完全に水を抜きます。

